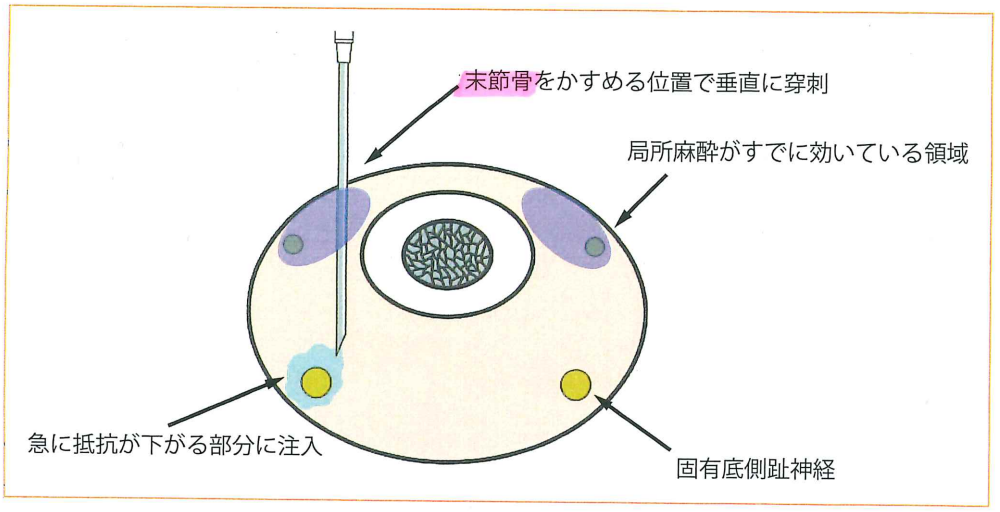

図 4

5) 31～33 G 針にて予麻酔

細い針といえば 31 G を使用する施設が多いと思われるが，当院では 33 G 針を使用することも多い．手掌や足底からは 33 G 針は細すぎて曲がってしまうが，背側の軟らかい皮膚であればほぼ問題ない．細い針であれば穿刺時の疼痛を軽減させることができるかもしれないが，注入速度がどうしても遅くなってしまうので，27 G 針を刺す前の予麻酔として使用している．

刺入部位は母趾外側の基節骨根部の趾間水かき部分とその平行線上の対側であり，皮下に 0.5 mL ずつ 2 か所予麻酔を行うことによって，27 G 針で本麻酔を注入する際の刺入時に痛みが出ないように，皮膚に麻酔すると同時に背側の神経 2 か所（前述の①②）をブロックしている．

6) 2 分待機

麻酔をかける際には時間を測って無駄のない時間配分ができるようにしている．予麻酔をしてから 2 分待機するが，この時間でカルテをできる限り記入している．

7) 趾神経ブロック麻酔[9)10)]（図 4）

予麻酔後の本麻酔には 27 G 針を使用している．注入量を考えた注入速度と注入時間，穿刺の疼痛を考えると，この針の太さが一番バランスが取れていると考えている．予麻酔で穿刺した部分と同じ個所（わずかな出血で穿刺部位が確認できる）に穿刺して，そのまま針を末節骨をかする程度に垂直に進めていくと底側皮下に近づいたところで急に注入抵抗が下がる部分がある．底側に注射器を持っていない側の自分の指をあてて膨隆することを確認しながら 2 mL 程注入する．この抵抗の感覚は経験で覚えていくしかない．

8) 5 分待機

再度キッチンタイマーを使用し，この 5 分の間に他の部屋で他の患者の診察を進めることもある．また，吐き気が出現していないかどうかを看護師に声掛けしてもらい確認する．多少時間が延びたとしても十分な麻酔効果が期待でき，不都合はない．

9) 創部を触って効果確認

趾尖部分を内外両側とも知覚が鈍麻しているかどうか確認するだけでなく，陥入部分を圧排して痛みがないかどうか，肉芽を圧排して鎮痛効果がしっかり得られているかどうかを確認する．また，手術を開始して鋭的な操作時に痛みが出ないかどうかを確認し，痛みを自覚するようであればもう 5 分待機し，もう一度評価する．それでも疼痛を感じるようであれば 7) に戻り必要に応じた部分にブロック麻酔を追加する．

『足爪治療マスターBOOK』　正誤表

本書におきまして、下記 2 点の誤りがございましたので、ここに訂正をいたします。
著者の先生、ならびにご関係の皆様に多大なるご迷惑をおかけいたしましたこと、深くお詫び申し上げます。

2020 年 12 月　株式会社 全日本病院出版会

【訂正箇所 1】
執筆者一覧　桜井祐子先生ご所属

誤）足の専門学校 SCHOOL OF PEDI

正）足の専門校 SCHOOL OF PEDI

【訂正箇所 2】
P. 68　図 1-a が誤っておりました。以下に、正しい図を掲載いたします。

図 1　ニッパー各種
a：美爪の達人，株式会社マルト長谷川工作所，Japan：肥厚爪，通常の爪用

『足爪治療マスターBOOK』

正誤表

本書におきまして、下記に誤りがございましたので、ここに訂正をいたします。 著者の先生、ならびにご関係の皆様に多大なるご迷惑をおかけいたしましたこと、深くお詫び申し上げます。

2020 年 12 月

株式会社 全日本病院出版会

p.130

下記、図 5 の下段写真の順番に誤りがありました。ここに改めて正しい図を掲載させていただきます。

a．術前　　b．術後

図 5　症例 2：沈み込んだ爪・陥入爪・深爪